

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（玉城町）概要

- 1 対話市町名 玉城町（玉城町長 ^{つじむら}辻村 ^{しゅういち}修一）
- 2 対話日時 令和5年4月27日（木）14時10分～15時05分
- 3 対話場所 玉城町立有田小学校 体育館（度会郡玉城町長更 376 番地）
- 4 視察場所 村山龍平記念館（度会郡玉城町田丸 114 番地 1）
田丸城跡（度会郡玉城町田丸字城郭 114-1）
- 5 対話項目
 - （1）人口減少対策について
 - （2）農業振興について

6 対話概要

対話項目（1）人口減少対策について

（町長）

玉城町は、昭和 30 年に誕生して 68 年を迎えます。その当時の人口は 1 万 1000 人、世帯数が 2100 世帯です。今 1 万 5000 人少しですから、4000 人人口が増えて、世帯数も 3800 世帯に増え、そして自治区の数も 21 自治区増えています。しかし、この数年様子を見ると、毎年 60 人ずつ位、人口が減少傾向であります。

もう一つは、コロナ対策は、正しくコロナ感染を理解して、友達をいじめたり嫌な思いをさせることはしないという冷静な行動を子どもたちから広げていただいた。そうした中でも、人の繋がりが大変希薄に社会全体がなってきています。

人口減少と、非常に人の繋がりが希薄になってきていることが、大きな課題であり、早い機会に対策を取らないとという思いです。

毎年、三重テラスで実施している首都圏の皆さんへの玉城町の PR、あるいは、関係人口を増やしていく取組を続けていきたいと思えます。

（知事）

昨年度、県内の 29 の市町と県の担当課で構成する「みえ人口減少対策連携会議」を開催し、また県庁の中でも検討会議、本部を作って議論してきたところです。人口減少対策方針を最終的にまとめるには、まだ 2、3 か月の時間がかかりますが、この方針に基づいて様々な対策を推進していきます。

自然減と社会減、両方とも三重県は減っています。それでは、県の活力が失われることから、妊娠・出産時に負担が多いと子どもを産む気持ちにならないので、その負担をなるべく減らすことと、もう一つは、県外から帰ってきてもらう、あるい

は、三重県で生まれていないけれど、三重県で暮らしたい人に声をかけて本県に来てもらう必要があります。3月末にまとめた人口減少対策方針案（中間案）のなかでは、人口還流、あるいは、県外の人に三重県に移住してもらう流れを作っていくことをうたっています。

玉城町は、毎年60人ほど人口が減っていくと説明がありましたが、その減り方を少しでも緩やかにし、人口を維持するために大事なことは働く場です。そして、賑わいも大事です。さらに、大事なことは子どもを育てる環境で、出産後1年2年の間に預けられる場所があるかどうか、あるいは、子育てについて相談できるような公の施設があることも大事です。人口減少対策を推進するための大きなツールは、もう一つあり、自然の豊かさです。これらの4つの要素で、三重県に帰ってきてもらったり、あるいは、他県から来てもらったりします。これからも各市町と連携を取りながら進めていきたいと思っています。

（町長）

4月16日に住民大学（有田村アカデミー）のキックオフイベントを行い、ぎゅーとらの社長にお話を聴かせていただきました。地域の皆さんが自分たちの住む地域のことについて、もう少し関心を持って大事にしていく取組です。災害時の助け合いや地域環境を守ることは、住民の皆さんの普段からの行動が大事です。それには、地域の皆さん同士が主体的に顔を合わせて、一緒になって地域をよくしていこうとすることを実践して取り組んでいかないと上手くいかないと思っています。

また、今年から、職員を「地域つながり特命係」に任命し、少し動きかけています。玉城町の子どもたちには、大学に進学し地域に戻って来ない方も多いため、普段から地域のために活躍したいという郷土愛を醸成していくことが大事であると考えており、地域をよくしていくリーダーを養成していく取組は大事にしていきたいと思っています。

そこで、県の施策の中でも、次世代、若い人が一緒になって地域をよくしていこう、そういう空気を応援するような仕掛けをお考えかお聞かせいただきたい。

（知事）

コロナ禍で人と人との繋がりが薄くなってしまい、それを取り戻していくには必ず努力がいります。住んでいる人たちが集まり顔を合わせて、新しい集まりが出来ることは素晴らしいことだと思います。市や町において賑わいづくりのお手伝いをされることは大事なことだと思います。住民の皆さんの繋がりが復活してくると、いつ何時起こるかもしれない地震等の災害時においても対応できます。災害時には皆で助け合わないといけませんので、日頃から住んでいる人同士の繋がりは大事です。玉城町職員を地域つながり特命係として任命し賑わい作りを町が提供するの、す

ばらしい事と思います。

もう一つ大事なことは郷土愛です。一旦、玉城町から外に出て、また玉城町に帰ってくる時に、大事なことは、郷土愛、ふるさとに対する思いを持てるかです。それがあれば、一旦出た人もまた帰ってくると言われています。人口減少対策方針案においても郷土愛を育むことを位置付けています。例えば、お祭りを一つのテーマにして、郷土愛を育むことができないかと考えているところです。これから形にしていかなければならない段階ですが、そういうふるさとへの思いを、小学校・中学校の時から育んでいこうと考えています。

対話項目（2）農業振興について

（町長）

玉城町には、豊かな農地が広がっており、いろいろな農業生産物、品目が生産される豊かな町です。玉城産ブドウのワイン造りをめざして、3月に伊勢志摩ワイナリーと連携協定を締結し、同社が3種類のブドウの栽培を始めることとなりました。

農業を基幹産業として発展を遂げてきた玉城町には、1,500ヘクタールの優良農地があり、また、先人の方が築いた公共インフラがあり、学ぶ場所、働く場所がある、そして、住宅環境が整っている、そのバランスを大事にした町づくりをしていかなければなりません。その中で、農地の多面的機能、生態系の保全から、災害の時には、田んぼが調整池としての役割を果たすこととなります。農業情勢はいろいろと変化していますが、土地改良の基盤整備をこれからも進めていきます。

もう一つは、防災の関係で、玉城町には30くらいのため池がありますが、その決壊を防ぐため、国土強靱化に関するいろんな施策が早急に実施されており、今後も順次取り組んでいきます。

さらに、意欲的な若い農家の方々の動きもあり、今の景観を保全しながら、若い農家が意欲をもって生産活動ができるように支援していきたいと思っています。例えば、浅井農園の代表者からは、その素晴らしい経営の考え方を町の若い人にアドバイスしていただくなど、いろんな繋がりを持たせていただくこともあります。そういった若い人たちを出来るだけ応援したいと言われていました。町としては、耕作放棄地が進むことがあってはならないので、何とか意欲のある人が農業生産が出来るよう、農地の集約を進めていきたいと考えています。

（知事）

玉城町は豊かな田園風景が広がり、米も、キウイやぶどうも作られています。これは収入を確保するうえで大事なことで、いろんな種類の農作物を作ることによって、1つの作物がうまくいかなくても、別の作物が収入源になるので、そういった

ことを考えるのは大事であると思います。

なお、農業は体に負荷が掛かりますが、その作業の負担を減らす方法の1つが機械化です。玉城町は平坦な土地が多いですが、中には機械が入りにくい土地もあるため、整地して機械が入りやすいように、土地改良して、機械を入れて負担なく仕事ができるようにしていくことは大事です。県としては、手放した土地、もう作っていない土地などを集約し、機械を入れて、収入が確保できるようにしていくことを後押ししていきたいと思います。

収入を確保するための機械化には経費もかかり、個人ではなかなか難しいので、会社を誘致し農業をしてもらうことも必要と思います。地元の人も、その会社で勤めれば良いと思います。大事なことは、農業では作物が育つ喜びがあります。一方で苦勞もあるので、その苦勞をなるべく少なくしていくことが必要です。

浅井農園の話がありましたが、同じ三重県ですから、玉城町にも来ていただいて、いろいろなものを作ってもらえることが、玉城町で農業振興していくためには大事かと思います。農業で働く場所があれば、玉城町の外へ出た人や玉城町以外の人、その土地で働きたい人が増えてくると思います。